

2019年3月13日

2018(平成30)年度 青森公立大学に対する大学評価(認証評価)結果

1. 判定

適合 (認定期間 2019年4月1日～2026年3月31日)

2. 認定及び提言 (評定スケール: S・A・B・C)

章	評定	提言
1 理念・目的	A	無し
2 内部質保証	A	無し
3 教育研究組織	A	無し
4 教育課程・学習成果	B	改善課題 1) 経営経済学部及び経営経済学研究科博士前期課程・博士後期課程では、教育課程の編成・実施方針に教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を示していないため、学位授与方針の内容を具体的に反映するよう改善が求められる。
		※対応: 今後検討のうえ、ホームページ等へ明記する。
		改善課題 2) 経営経済学部において、GPAや卒業アンケート、資格試験の結果を用いて学習成果の測定に努めているが、これらを用いて、学位授与方針に示した学習成果を十分に把握できているとはいいがたいため、改善が求められる。
		※対応: 今後検討のうえ、改善を行う。
5 学生の受入れ	B	改善課題 1) 経営経済学研究科博士前期課程では、収容定員に対する在籍学生数比率について、0.38と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善することが求められる。
		※対応: 大学院博士前期課程の入学定員を8名から4名へ変更することを理事会で決議し、2019年3月に文部科学省へ届出する。
6 教員・教員組織	B	改善課題 1) 大学院として固有のFDが行われていないため、適切にこれを実施するよう改善が求められる。
		※対応: 2019年1月23日に大学院固有のFDを開催した。

7	学生支援	S	<p>長 所</p> <p>1) キャリア支援について、「キャリアセンター」を中心に、教員も積極的に関与しながら企業訪問や就職情報サービス企業の担当者との情報交換を細やかに行うとともに、学生が地元企業や公的機関等を訪問するバスツアーの実施・拡充に努めているほか、『就活ハンドブック』の発行、就職ガイダンス、保護者への情報提供等を大学が主体的に行っている。こうした取組みにより、就職率が向上していること、地元及び東北や北海道への就職者の割合が近年高い水準を維持していることから地域貢献にも結びつくなど理念に沿った結果が現れており、評価できる。</p>
8	教育研究等環境	A	無し
9	社会連携・社会貢献	S	<p>長 所</p> <p>1) 大学による継続的な社会貢献や地域みらい学科の学生によるフィールドリサーチ等から自治体との連携が進み、佐井村においては、各家庭にニュース・警報・お知らせの配信、安否確認可能な機能等のある情報端末機器を設置し、学生によるその後の利用状況ヒアリング調査や訪問調査等を行っている。他の自治体からの大学側へ連携協定の申込みも増え、各自治体との双方向的な連携協定が長期にわたって行われている。また、連携協定を締結している県内自治体へ学生が赴き、地域住民とともに調査・企画立案した特産品を集めた物産品店を通じて、各地域のPRを図る「まるっとよいどころ祭り」は、現在では大学主催となり、学生が企画に参加することで大学と市民をつなぐ青森市の一大イベントに成長しており、評価できる。</p>
10	大学運営	A	無し
	財務	A	無し

青森公立大学に対する大学評価(認証評価)結果
 評価一覧表

評価実施年度:2018(平成30)年度

基準		評価
1	理念・目的	A
2	内部質保証	A
3	教育研究組織	A
4	教育課程・ 学習成果	B
5	学生の受け入れ	B
6	教員・教員組織	B
7	学生支援	S
8	教育研究等環境	A
9	社会連携・ 社会貢献	S
10 (1)	大学運営・財務 (大学運営)	A
10 (2)	大学運営・財務 (財務)	A

《評価基準》

- S** 大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的を実現する取り組みが卓越した水準にある。
- A** 大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的を実現する取り組みが概ね適切である。
- B** 大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的の実現に向けてさらなる努力が求められる。
- C** 大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

※ 基準1「理念・目的」において、上記の評価基準を適用する場合は、「理念・目的を実現する取り組みが……」又は「理念・目的の実現に……」の部分は問わない。